

introduction

骨盤骨折は骨と靱帯により強固に構成された構造体の破綻であり、その多くが高エネルギー外傷により生じ、出血により生命の危険を伴う場合があることはご承知のことと思います。骨盤骨折の診療では、出血への対応を行いながら同時に初期治療を開始すること、臓器損傷も含め損傷の状況を理解し適切な治療方針を立案すること、さらに通常のプレート・スクリューのみならず脊椎インストゥルメンテーションを使用して破綻した骨盤構造を再建すること、など多くの課題があります。このような一連の治療を成功させるには各分野の細分化された知識や経験だけで対応することは難しく、複数の診療科と多職種のメディカルスタッフにより構成されるチームでの診療が欠かせません。今回の特集では初め対応から治療方針の決定、各種治療法の実際について第一線で活躍されている先生方に執筆をお願いいたしました。ご一読いただくことで、骨盤骨折の基本的な考え方から最近の傾向まで網羅でき、幅広い先生方にお役立ていただけるものと考えます。

また、近年高齢者において転倒などの軽微な外傷により発生する骨盤骨折が脆弱性骨盤骨折 (fragility fractures of the pelvis : FFP) として注目されています。この外傷は患者本人が殿部痛や腰痛を主訴に歩いて外来へ来院されることもあり、多くの医療機関で遭遇する可能性がある骨盤骨折です。骨折してしばらく経過してから受診されることもあり、骨形成と骨破壊が混在し骨腫瘍との鑑別が必要になることもあります。診断や治療方針の決定には高エネルギー外傷による骨盤骨折とは異なる理解が必要になるため、今回は別に章を立てて FFP に関して造詣の深い二人の先生にご執筆をいただきました。

骨盤骨折は救命救急センターで診療を行う特殊な領域であるとお考えの先生もいらっしゃるかもしれません。しかし、高齢者の増加や救急医療の進歩により、本骨折に遭遇し、診療にあたる機会も以前より増加していると思います。本号が先生方の日常診療の一助となりますことを期待しております。

岡山大学整形外科
尾崎敏文